

# 自己評価表(京都栄養医療専門学校 栄養士科)

## 1. 学校の教育目標

<p>&lt;道標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国民の健康増進の一翼を担う専門性と豊かな人間性を身につける</li> <li>栄養士に求められる優れた栄養教育及びコミュニケーション能力の向上を図る</li> <li>給食を運営するための調理指導及び献立作成能力を養う</li> <li>実験実習を通して問題解決及び衛生管理能力を培う</li> </ol>
--

<p>&lt;ディプロマポリシー&gt;</p> <p>健康寿命の延伸、健康の保持・増進など国民の生活の質(QOL)の向上に貢献できる栄養士が求められています。栄養士科では、国民の福祉増進に寄与できる実践的な職業能力をもつ専門士として、「給食の運営に秀でた調理と献立作成、衛生管理に強い栄養士」を養成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>建学の精神、メディカルホスピタリティ・スタンダードをもとに、栄養士としての誇りとプロ意識を持ち、食や栄養を通じて社会に貢献できる資質・能力を身につける</li> <li>栄養士として給食の運営に必要なマネジメント能力及び総合的な専門知識と技能を身につける</li> <li>自ら問題を見出し解決できる能力と、周りを巻き込んで成果を創出できるリーダーシップとコミュニケーション力を身につける</li> <li>栄養士実力認定試験(全国栄養士養成施設協会主催)において認定Aを取得するために必要な優れた知識・技能を身につける</li> </ol>
---

<p>&lt;カリキュラムポリシー&gt;</p> <p>栄養士科では、メディカルホスピタリティ・スタンダードに基づく、規範教育による社会人基礎力の醸成と、生活習慣病予防の観点から、食事・栄養の重要性とその役割を理解し、社会から期待され、評価される実践力のある栄養士の養成を行なっています。また、京都の地域性を活かした特色ある(京料理や京野菜など)職業教育を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義と実験・実習における科目横断的な連携を図り、より深い理解を得ることのできるカリキュラム編成を行う</li> <li>ホスピタリティマインドやキャリアデザインの授業により人間力とライフデザイン力の醸成を図る</li> <li>給食の運営に必要とされるHACCPの概念に基づく衛生管理や調理技術、献立作成能力の向上を図る</li> <li>5つの専門コース別授業を実施し、各自の目標に合わせた授業を受講することにより夢の実現を図る</li> <li>栄養士実力認定試験(全国栄養士養成施設協会主催)における「認定A」を取得するための授業、対策講座を運営する</li> <li>各種資格・検定を取得できる対策講座等の教育プログラムを運営する</li> <li>管理栄養士科への3年次内部進学制度を実施する</li> </ol>
---

<p>&lt;アドミッションポリシー&gt;</p> <p>栄養士の果たすべき役割とその期待が大きくなるなか、社会で活躍できるホスピタリティあふれる人材かつ、自ら問題を見出し、考え、行動できる栄養士の養成を目標としています。本校では、Made in Yourself(未来の自分がここにある)をキーワードに、次の要件を満たす学生を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>建学の精神を理解し、学則を遵守できる人</li> <li>栄養士として食と健康に興味を持ち、食を通じて生活の質の向上および保持・増進に寄与したいと考える人</li> <li>栄養士として自ら模範となる食生活を実施し、人を笑顔に、人を幸せにしたいという、おもてなしの心と奉仕の心を持って行動できる人</li> <li>規範やモラルを重んじ、何事においても真摯さ、正直さ、誠実さを備えた姿勢で取り組める人</li> <li>グラデュエイトクラスでは社会人経験のある人、また、大学、短期大学、専門学校等を卒業した人で、さらにチャレンジし栄養士として活躍したい人</li> </ol>
--

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>全栄養協業実力認定試験の全員認定A取得(食育栄養インストラクター資格取得)</li> <li>教員・助手の職能開発と人間的魅力の向上および教育への還元(ホスピタリティマインドとアカデミック・インテグリティの醸成)</li> <li>栄養士に求められる調理技術と献立作成能力の習得</li> <li>校外実習事前指導の充実と事後指導・報告会のさらなるイノベーション</li> <li>ライフデザイン力向上による出口および就職先事業所から評価を得る卒業後教育の創生</li> <li>プラス1ライセンス取得に向けたサポート体制の充実</li> <li>入口と出口を見据えた栄養教諭養成課程の創生</li> </ol>
---

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	備考: 取り組みの内容	備考: 根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1	体系化した学園理念の下で教育理念(道標)を明確にして、さらには学科ごとにディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めている。	・道標 ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー	4	4	4	4
・学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1	それぞれの職業に必要なスキル教育だけに視点を置くのではなく、その前に「人間として必要なことがある」ということを重視するとともに、独自のカリキュラム内容で演習・実習等を中心に実践的な授業を展開している。特に、人の幸せを自分の幸せと考えることができるホスピタリティ精神の涵養について重きを置いている。なお、ホームページの「学校長挨拶」の部分に学科ごとの教育方針を記述している。	・学則の教育課程(カリキュラム) ・ホームページ「学校長挨拶・学校ポリシー」ページ	4	4	4	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1	10年後を見据えた学園ビジョン(長期経営目標)、学園の中期経営計画(中期経営目標)、各年度の学園運営方針を基に、本校の運営方針を、さらには各学部、各学科の事業計画に具体的な目標設定をしてその達成に向けて取り組んでいる。また、それぞれの目標設定の際には社会経済の動向予測やニーズなどの把握をして計画を策定している。また、食・栄養に関わる分野の動向を把握し、社会から広く求められる人材を輩出するため、2017年度以降の新カリキュラムを策定した。	京都栄養医療専門学校 学校運営方針 2017年度新カリキュラム	4	4	4	4
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 3 2 1	学生に配布するシラバス集に掲載するとともに、HPにも掲載している。また、年に1回、保護者対象説明会を開き、就職支援状況や教育活動に関する情報提供と意見交換を保護者と行っている。	・シラバス集 ・ホームページ「学校長挨拶・学校ポリシー」ページ	4	4	4	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられている	4 3 2 1	業界や事業所の有識者が参画する教育課程編成委員会を編成し、育成する人材像やカリキュラムについて意見提言を採り入れている。	・ホームページ「学校長挨拶・学校ポリシー」ページ	4	4	4	4

### ① 課題

策定したディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを各業務に具体的に落とし込

### ② 今後の改善方策

・各授業・業務の計画時に、当該事業がポリシーのどの部分に関連するのかを明確にする。  
・各ポリシーに関する勉強会を開き、教職員一人ひとりの意識を高め、思想設計や実践につなげる。

### ③ 特記事項

・学園として10年先を見据えた長期経営目標、3年に1度の中期経営計画、単年度ごとの学園運営方針を体系的に策定し、その内容を学校ごとの学校運営方針、部署ごとの事業計画書、さらには教職員個人の目標(チャレンジシート)に落とし込んで、それぞれの目標が達成できるように取り組んでいる。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1	長期経営目標、中期経営計画、学園運営方針、学校運営方針を体系的に策定している。	・長期経営目標 ・中期経営計画 ・学園運営方針 ・学校運営方針 ・事業計画 ・ホスピタリティ・レポート(学園概要&SR報告書)	4	4	4	4
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1	各部署事業計画を学校運営方針に沿って策定している。	・学園運営方針 ・学校運営方針 ・事業計画	4	4	4	4
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 2 1	法人の管理規則に明記され、規則に則り運営されている。	・コンプライアンスマニュアル(管理規則)	4	4	4	4
・人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1	法人において、人事規程、人事考課規程を定めている。	・コンプライアンスマニュアル (給与規程、人事規程、人事考課規程)	4	4	4	4
・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1	法人の管理規則、経理規程に則り整備されている。	・コンプライアンスマニュアル (管理規則、経理規程)	4	4	4	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1	法人において、グループ・ガバナンスを構築し、全教職員にコンプライアンスマニュアルを配布し、周知徹底を図っている。	・コンプライアンスマニュアル(管理規則、庶務規程、情報セキュリティポリシー、プライバシーポリシーなど)	4	4	4	4
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1	入学案内書、ホームページ、ホスピタリティ・レポート(学園概要&SR報告書)などを通じて、情報公開している。	・入学案内書 ・ホームページ ・ホスピタリティ・レポート(学園概要&SR報告書)	4	4	4	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1	独自の業務支援システムを活用し効率化を図っている。	・業務支援システム	4	4	4	4

① 課題

・教育活動に関する情報公開は実施しているが、授業評価結果等は公開していない。  
 ・業務支援システムが導入され、十数年が経過しており、必要に応じて継続的に改修をしているが、改修内容によっては費用的なこともあり、先送りや運用で対応することがある。

② 今後の改善方策

・様々な教育活動について情報公開していくとともに、授業評価結果の公開を検討していく。  
 ・業務支援システムは、2017年度に改修・移行作業を行い、2018年度から稼働予定。

③ 特記事項

・各種規程・規則をまとめた「コンプライアンスマニュアル」において組織の意志決定や人事、給与に関する規程、セキュリティポリシーなどを定め、コンプライアンスの周知徹底をはじめリスクマネジメントの強化など、公正かつ透明性の高いグループ・ガバナンスを構築している。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1	教育理念より教育綱領、道標、教育目標、教育課程を体系的に策定している。	・学則規定集 ・シラバス集	4	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1	教育目標に沿ったカリキュラムを編成し、1,700授業時間以上を確保している。	・シラバス集	4	4	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1	各教科担当の教員の意見等をもとに、カリキュラムは継続的に見直している。2017年度に向けてカリキュラムの全面改訂を行った。	・2017年度カリキュラム ・シラバス集	4	4	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1	科目横断的連携を行い、学生に理解度向上を目指してシラバスの変更を実施している。	・シラバス集	4	4	4	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1	関連分野の企業・関係施設、業界団体及び本校教職員で教育課程編成委員会を組織し、連携してカリキュラムの見直しを実施している。		4	4	4	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1	2年次校外実習(実習時間40時間)を実施し実践的な職業教育を行っている。	・校外実習関係資料	4	4	4	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1	全ての授業を対象に授業評価を実施している。	・授業評価実施要領	4	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1	外部委員を招聘し、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を組織し、外部関係者からの評価を取り入れている。	・教育課程編成委員会報告書 ・学校関係者評価委員会報告書	4	4	4	2
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1	各科目60点以上を単位認定としている。	・学則規定集	4	4	4	4
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1	カリキュラムによる対策講座(栄養士実力認定試験対策講座、栄養士実力認定試験基礎対策)を必須科目として運営し、資格取得への対策を実施している。	・認定栄養士実力試験対策実施要領	4	4	4	4
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1	各専門分野に精通した教員を配置して授業力の高い授業を運営している。	・教員編成一覧	4	4	4	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1	非常勤講師は現場経験や研究業績を基準として厳選して採用している。また、授業内に専門分野の外部講師を招聘し授業を実施している。		4	4	4	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1	各担当教員の専門分野の学会・研修会への参加を積極的に実施している。	・研修規定 ・派遣研修規定	4	4	4	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1	学園主催の集合研修を中心に、年間を通じて能力開発研修を実施し、職員の能力向上を図っている。	・研修規定 ・派遣研修規定	4	4	4	4

① 課題

・よりよい授業改善につながる取り組み強化。  
 ・現場業務に直結した実学教育の展開。また、継続的な個々の教員の資質向上。

② 今後の改善方策

・関連業界との良好な人間関係を構築することで、求められる人材をしっかりと見極め、現場が求められる学生の人材養成に努める。  
 ・教員が最新の業務を修得し、資質を高めていくために学会、研修会に積極的に参加・発表する。  
 ・2017年度生からのカリキュラムについて、教育課程編成委員会にて外部委員の意見を取り入れて改編した。

③ 特記事項

・授業評価を詳細に分析し、各授業における改善項目を抽出して、次期の授業運営に反映させている。また、常勤教員の科目入れ替えや非常勤教員の交代など、常に授業評価を最大限に高める人員配置に努めている。外部講師を積極的に招聘し、管理栄養士・栄養士が活躍する現場の最先端の情報を学生に提供できるように配慮している。

・教員・助手の学会参加を積極的に奨励し、すべての教員が年1回以上、公費で学会に参加できるサポート体制を敷いている。学会参加後には1週間以内に報告書を作成する規則となっており、学会で得られた情報や最新の話題を教職員全員で共有することで教育に還元させている。

・地域連携講習会の開催により、病院や高齢者施設の管理栄養士・栄養士とのコミュニケーションを図り学生自身が実際に理解できるように取り組んでいる。

## (4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・就職率の向上が図られているか	4 3 2 1	例年高い、就職率、専門職就職率の実績を残している。	・入学案内書 ・ホームページ「就職支援」	4	4	4	4
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1	各資格検定の対策講座を実施し、資格取得率が向上している。	・入学案内書 ・ホームページ「資格・検定」	4	4	4	4
・退学率の低減が図られているか	4 3 2 1	正副担任による学生個別面談を定期的に行い、悩みや不安を共有することで、退学者の防止に努めている。また、正副担任のサポート以外に、入学直後に基礎科目勉強会も行い、学力不安の解消に努めている。	・在席状況報告表	4	4	4	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1	在校生は校外実習先による実習評価を行っている。また、卒業生は事業所訪問での情報収集などにより把握している。	・実習先評価表 ・事業所訪問履歴	4	3	3	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1	卒業生と連絡を密にして卒業後の取り組み・業務内容等を確認し、授業に反映させている。		4	4	4	4

## ① 課題

・栄養士の資質向上を目指して実施している栄養士実力認定試験の全員認定A取得。  
・進路決定率100%の達成とともに、質の向上を図る。

## ② 今後の改善方策

・基礎対策、対策講座、振り返り試験及び模擬試験を実施し、全員認定A取得に向けたサポート体制を充実させている。  
・内定の際に希望度合いを確認し、第一希望進路決定率を把握する。  
・継続的な同窓会活動とOBOGサイト等の活発化により卒業生の動向を把握する。

## ③ 特記事項

・栄養士実力認定試験対策について、2013年度より振り返り試験の実施と基礎対策を新たに開講し指導を強化している。

## (5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	全学生に職業指導の授業を履修させているとともに、One to Oneのキャリアサポートを実践している。	・入学案内書 ・ホームページ「就職支援」	4	4	4	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1	正副担任及びカウンセラーを配置している。	・正副担任一覧	4	4	4	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	独自の特待生・奨学生制度を整備している。	・特待生・奨学生制度	4	4	4	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1	校医を1名配置している。また、入学時の結核健診や保菌検査、健康チェックシートの記入による学生個々の健康状態を把握し、教職員間で情報共有している。	・健康チェックシート	4	4	4	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	各種学校行事(学外研修、球技大会等)の実施やクラブ活動、各種講習会の学生参画を支援している。	・クラブ活動規定 ・各種行事、講習会報告書	4	4	4	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1	住居の支援体制を整え、正副担任、カウンセラーが生活環境の不安の相談など解消にあたっている。	・住宅支援資料	4	4	4	4
・保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1	就職活動学年の保護者に対して、就職説明会を実施している。定期試験結果を保護者宛に通知している。	・保護者対象就職説明会実施要領	4	4	4	4
・卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1	再就職登録の支援や、国家試験対策講座を実施している。卒業生対象のホームカミングデーを実施し、リカレント教育を行っている。	・同窓会報	4	4	4	4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 2 1	グラデュエイトクラス(高校新卒以外)を設けている。入試において、社会人対象の試験区分を設け、また、社会人対象の奨学金を整備している。	・クラス編成一覧	4	4	4	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 2 1	高校と連携し、職業理解を目的に見学会を実施している。	(活動例) ・西山高校見学会 ・乙訓高校講座	4	4	4	4

## ① 課題

・保護者の学校理解(規定、教育、就職サポートなど)促進に努める必要がある。  
・社会が求めている栄養士の知識と技能について、社会の変化を逸早く捉えてカリキュラムをブラッシュアップさせる必要がある。  
・再就職登録者の増加。

## ② 今後の改善方策

・学習成果だけでなく、教育内容等の定期的な情報発信を行い、本校教育の取り組みに対する理解促進につなげ、学生、保護者、学校が三位一体となった職業教育を実践していく。  
・関係業界や卒業生との連携を図り、現状把握を行い授業内容を見直し・変更を行い期待に応えられる教育を実施する。  
・再就職登録に向けて、SNSも活用し案内する。

## ③ 特記事項

・ハラスメント・ポリシーの策定、ハラスメント委員会の配置により、ハラスメントフリーに取り組んでいる。  
・校外実習・臨地実習時に実習事業所を訪問して現場の管理栄養士・栄養士とコミュニケーションを取り現状把握に努めている。  
学生一人ひとりの希望を把握した、One to Oneのサポートに取り組んでいる。

## (6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考: 取り組みの内容	備考: 根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1	最新の設備を完備し卒業後を意識させながら授業運営を行っている。		4	4	4	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1	学外での実習を卒業必修単位として定め、また、インターンシップも単位化し、事前指導から評価まで体系的な教育体制を整えている。	・校外実習実施要領 ・インターンシップ実施要領	4	4	4	4
・防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1	2013年3月に校舎の耐震補強工事を完了した。また、緊急時の役割分担を組織化した、緊急避難マニュアルを整備している。避難訓練を2016年度に実施。	・消防組織図	3	3	3	3

## ① 課題

・現場の状況に合わせた施設・設備の継続的なりリニューアルが必要である。

## ② 今後の改善方策

## ③ 特記事項

・本校オリジナルのe-Learningシステムによって、いつでも、どこでも、何度でも学習できる環境を設け、栄養士実力認定試験対策の強化にあたっている。

## (7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考: 取り組みの内容	備考: 根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1	6月以降にAO入学エントリーを開始し、8月以降に出願受付。その他、一般入試等については、10月以降に出願を受け付けている。	入学要項	4	4	4	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1	就職率や資格・検定合格率については、関連部署に確認を取ったうえで入学案内書に掲載している。	入学案内書	4	4	4	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1	健全な財務運営や入学者の家計における学費負担などを勘案し、奨学金制度なども含めて、毎年1月に、翌々年度の学納金の額を検討し、決定している。そのことによって学校選択の際には入学希望者があらかじめ学納金を把握できるようにしている。	入学要項	4	4	4	4

## ① 課題

・特になし。

## ② 今後の改善方策

・特になし。

## ③ 特記事項

・入学希望者は学校選択をする際に学納金の額を確実に把握できるよう、早期に学納金を決定している。

## (8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考: 取り組みの内容	備考: 根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1	入学者を確保でき、予算に基づく適切な収支のバランスが保持できている。将来を見据えたキャッシュフローも確保でき、財務基盤の強化が図れている。	2015年度決算書	4	4	4	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1	毎年事業計画に則り収支バランスのとれた予算を策定し、執行に際しても管理徹底を行っている。	事業計画書	4	4	4	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1	月次決算報告会を実施し、学園監事による執行状況のチェックを毎月実施している。	月次報告会議事録	4	4	4	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1	データ集(大和学園グループの財務状況)をホームページにて公開している。	データ集「大和学園グループの財務状況」	4	4	4	4

## ① 課題

・18才人口の大幅減少を見据えた健全な財務運営。

## ② 今後の改善方策

・新たな教育分野の開拓や定員増等収入の安定確保に繋がる中長期財務計画の策定と取り組み。

## ③ 特記事項

・特になし

## (9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考: 取り組みの内容	備考: 根拠となる資料の内容	過年度の評価			
				2015	2014	2013	2012
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 2 1	法令遵守はもとより、学園内の諸規程を整備し、すべての規程をコンプライアンスマニュアルという名称で全教職員に配布し周知を図って、適正に運営している。学則(教務規定)の見直しは毎年行い、法令に従って都度届出等を行っている。	・コンプライアンスマニュアル ・学則	4	4	4	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 2 1	個人情報に関する独自の規程を定め、問題が起きた際の対処フローも決めて、徹底を期している。	・情報セキュリティポリシー ・プライバシーポリシー	4	4	4	4
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 3 2 1	多面的点検評価と称して、重視度調査・授業評価・満足度調査を学生に対して実施、アンケートで出てきた改善点を授業運営に反映している。管理栄養士科、栄養士科においては、厚生労働省が養成施設に求めている自己点検項目に沿って自主点検を実施している。「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価を実施し、次年度の取り組みに活用している。	授業評価アンケート報告書	4	4	4	3
・自己評価結果を公開しているか	4 3 2 1	ホスピタリティ・レポート(学園概要&SR報告書)に卒業時の満足度調査と授業評価の結果について学園の平均点を掲載している。また、自己評価の結果をHPにて公開している。	・ホスピタリティ・レポート	4	4	4	3

① 課題 特になし
② 今後の改善方策 特になし
③ 特記事項 ・2013年度より自己評価結果に基づき、学校関係者評価委員会を開催した。各分野の企業等から委員を招聘し、そこでいただいた意見を学校運営に活かす。 ・継続して「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を作成し公表する。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価						
				2015	2014	2013	2012			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1	各種団体に対し、様々な講習会等を実施するために学校の施設を提供している。	・ホスピタリティ・レポート	4	4	4	4
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1	学生に対して、地域の方々を対象とした料理教室への参加を支援している。	(活動例) ・ソフト食講習会 ・透析食講習会 ・小学校食育教室	4	4	4	4
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1	地域の方々を対象とした料理教室を実施している。	(活動例) ・ソフト食講習会 ・透析食講習会 ・乙訓高校調理指導実習 ・御山町立御牧小学校食育料理教室	4	4	4	4

① 課題 ・参加する学生が限られている。
② 今後の改善方策 ・社会的責任を果たす人材の育成のための活動を積極的に実施する。 ・学生が参加できるボランティア活動の案内を充実させる。
③ 特記事項 ・社会貢献・地域貢献に関する詳細はホスピタリティ・レポート(学園概要&SR報告書)および、学園ホームページ参照。

(11). 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容	過年度の評価						
				2015	2014	2013	2012			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1	留学生用の入学案内書および入学要項、奨学金・住居サポートのパンフレットを作成し、留学生対象のガイダンスへの参画や日本語学校への訪問などで募集活動を行っている。 また、在学生に対し海外留学制度を設けている。	・留学生パンフレット ・入学要項 ・サポート制度のご案内 ・訪問計画 ・入学案内書「海外留学・研修プログラム」	4	4	4	4
・受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1	留学生の受入れについて、留学生用の入学案内書および入学要項、奨学金・住居サポートのパンフレットを作成し、留学生に安心して入学してもらえるよう案内している。 また、大阪入国管理局からの留学生実態調査に毎年回答し提出している。	・留学生パンフレット ・入学要項 ・サポート制度のご案内 ・留学生実態調査回答用紙	4	4	4	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1	英文での卒業証明書、成績証明書を発行している。		4	4	4	4
・学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1	教務部において留学生カウンセラー制度を設けている。		4	4	4	4

① 課題 ・留学生が1名のみ。
② 今後の改善方策 ・ガイダンスや日本語学校訪問を積極的に行い、留学生の入学実績を増やしていく。
③ 特記事項 ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

長期経営目標、中期経営計画、学園運営方針、学校運営方針を体系的に策定し、目標達成に向け、コンプライアンス遵守を徹底し学校運営に取り組んだ。栄養士科では40年間培った伝統と経験を継承しながら、理論と実務を融合させた教育をさらに推進し、給食実務実習を通じて運営力と実践力を高め「調理と献立作成に強い栄養士」と「給食の運営に秀でた栄養士」の養成に取り組んだ。また、学習成果の向上を目的に授業評価アンケートを行い、日々の授業改善により、実践的かつ専門的な職業教育を実践した。特に授業評価や校外実習における現場指導者からの評価はカリキュラムの見直しの際の参考資料として活用した。継続して、関連企業や関連団体との連携を充実させ、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を組織し、より社会のニーズに沿った教育カリキュラムの構築や授業運営、学校運営を目指していく。また、今後は本校の適正な評価を得るために、卒業生、保護者、事業所といったステークホルダーに対するアンケートを実施し、アンケート結果をもとに日々の学生指導及び教育に活かしていく予定である。